

国際島嶼産業研究

Journal for the Island Industry

第5号

2022年6月

【実態調査】

沖永良部島和泊町における外国人労働をめぐる現状と課題

西村知、ニシムラ ジョアン テハダ (1)

沖永良部島和泊町における外国人労働をめぐる現状と課題

西村知 (鹿児島大学)

ニシムラ ジョアン テハダ (鹿児島大学)

Current Status and Issues of the Foreign Labor on Okinoerabujima

NISHIMURA Satoru (Kagoshima University)

NISHIMURA Jo-Ann Tejada (Kagoshima University)

Abstract

In many remote islands of Japan, it is difficult to maintain the local economy and society due to the declining population and aging population. Under these circumstances, the national government and local governments promote migration and create an environment where foreigners can play an active role. The purpose of this paper is to clarify the conditions for foreigners to be able to contribute to the local economy as workers in the local economy of remote islands. This study clarified the current situation and issues concerning foreign labor by interviewing the people concerned, taking Okinoerabujima in Kagoshima Prefecture as an example. It was found that it is important to close the communication gap between foreign workers and islanders and to have a framework in which foreigners can actively participate in creating new businesses.

Keywords: 離島、外国人労働、沖永良部島、フィリピン、ベトナム

1. 問題の所在

多くの日本の離島では、人口減少、高齢化によって、地域経済、社会の維持が困難になっている。このような状況で、国や各自治体は、移住の促進や外国人が活躍できる環境作りを行っている。後者は、具体的には、技能実習生制度、特定技能制度の拡充などを意味する。また、定住ビザ、永住ビザを持つ外国人の役割も期待されている。本稿の目的は、外国人が離島の地域経済において、労働者として地域経済へ貢献することが可能となるための条件を明らかにすることである。本研究は、この目的を果たすために、鹿児島県の沖永良部島和泊町を事例として、関係者への聞き取り調査によって外国人労働をめぐる現状と課題を明確にした。

沖永良部島和泊町を調査地とする理由は、沖永良部島が、外国人人口の割合において、鹿児島県では、特に高い島であるからである。表1が示すように、2020年10月現在で、鹿児島県の離島の中で、沖永良部島の外国人人口は、最大であった。また、徳之島や喜界島の外国人の大半が、フィリピン人であるのに対して、沖永良部島は、フィリピン人以外に、ベトナム人、中国人が一定数、居住している。表2が示すように、鹿児島県の1000人当たりの外国人人口は、7.8人で、全国の21.8人と比較するとかなり低い。しかし、和泊町の値は、17.5人であり、鹿児島市の5.8人の3倍以上の水準を示し、鹿児島県内では、最上位のグループに属する。和泊町は、今後の鹿児島県、特に離島における外国人労働の導入などの国際化をめぐる経済社会の姿を先取りしていると考えられる。

表1 鹿児島県離島における外国人居住者の出身国（2020年10月）

		ベトナム	中国	フィリピン	その他	合計	
鹿児島 県の 離島	種子島	34	20	19	42	115	
	屋久島	12	16	32	48	108	
	奄美 群島	奄美大島	15	27	19	91	152
		徳之島	0	0	78	23	101
		喜界島	0	0	35	8	43
		沖永良部島	79	13	64	13	169
鹿児島市		1,093	825	279	1,107	3,304	

出所：法務省出入国在留管理局

表2 沖永良部島、鹿児島市、鹿児島県、全国の外国人人口（2020年10月）

	人口	外国人人口	人口1000人当たりの外国人人口
沖永良部島	11,996	169	14.1
和泊町	6,246	109	17.5
知名町	5,750	60	10.4
鹿児島市	593,128	3,304	5.6
鹿児島県	1,601,711	12,416	7.8
全国	126,146,099	2,747,137	21.8

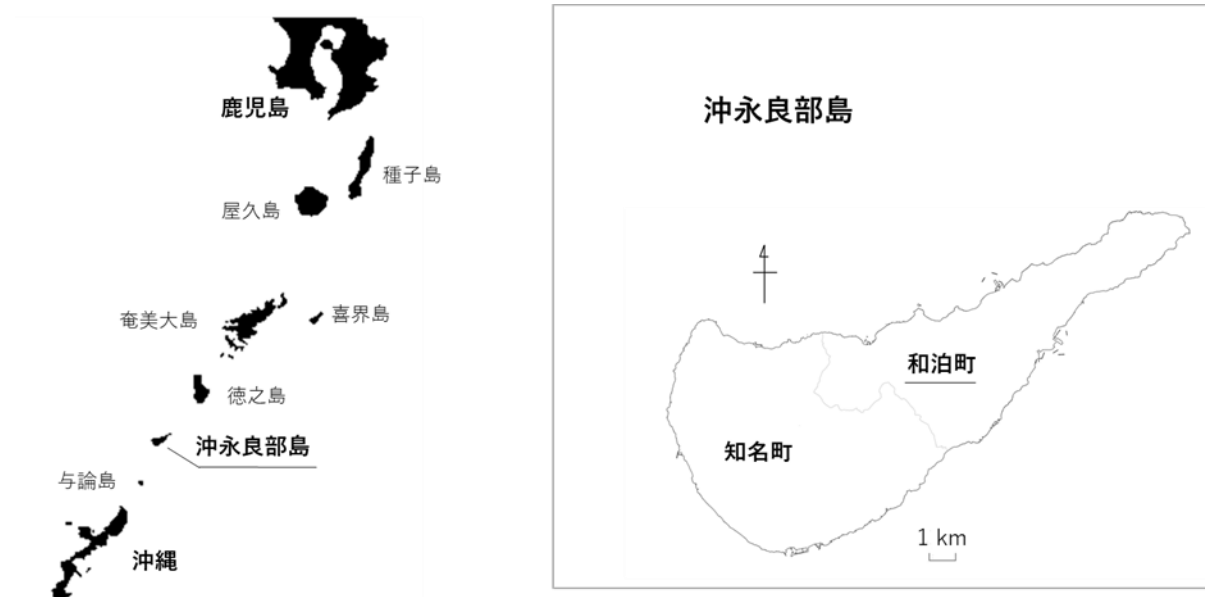
出所：2020年国勢調査

2. 沖永良部島和泊町の人口・産業・外国人居住者

沖永良部島は、沖縄本島の北東部に位置する鹿児島県奄美群島に属し、東部の和泊町と西部の知名町で構成される（図1参照）。『2020年国勢調査』によると、和泊町の人口は、令和2年度（2020年度）10月時点で、6,246人、知名町は、5,813人であった。和泊町の『和泊町町勢要覧2021』によると、主な産業は、農業であり、表3が示すように、野菜生産、花き生産、畜産、さとうきび生産が主である。野菜は、島の温暖な気候を活かし、ばれいしょなどの早生栽培が行われている。花の栽培は、明治32年（1900年）から始まり、海外にも輸出されている。ユリ、グラジオラス、ソリダコ、菊などが生産されている。安定的な用水の確保による農業生産性の向上や農業経営の安定に役立てる目的のために、国営沖永良部農業水利事業（通称・地下ダム事業）が進められている（『南海日日新聞』2020年05月22日）。

沖永良部島では、年間平均気温22度という温暖な気候に恵まれ四季を通じて熱帯、亜熱帯の花々が咲き、鍾乳洞・昇竜洞をはじめ200～300の大鍾乳洞群が見られ、「花と鍾乳洞の島」の異名をとっており、観光業も盛んである（一般社団法人おきのえらぶ島観光協会）。

図1 沖永良部島和泊町の位置



出所：国土交通省国土地理院『地理院地図（電子国土 Web）』により筆者作成

表3 和泊町の令和2年度農地産物の生産額

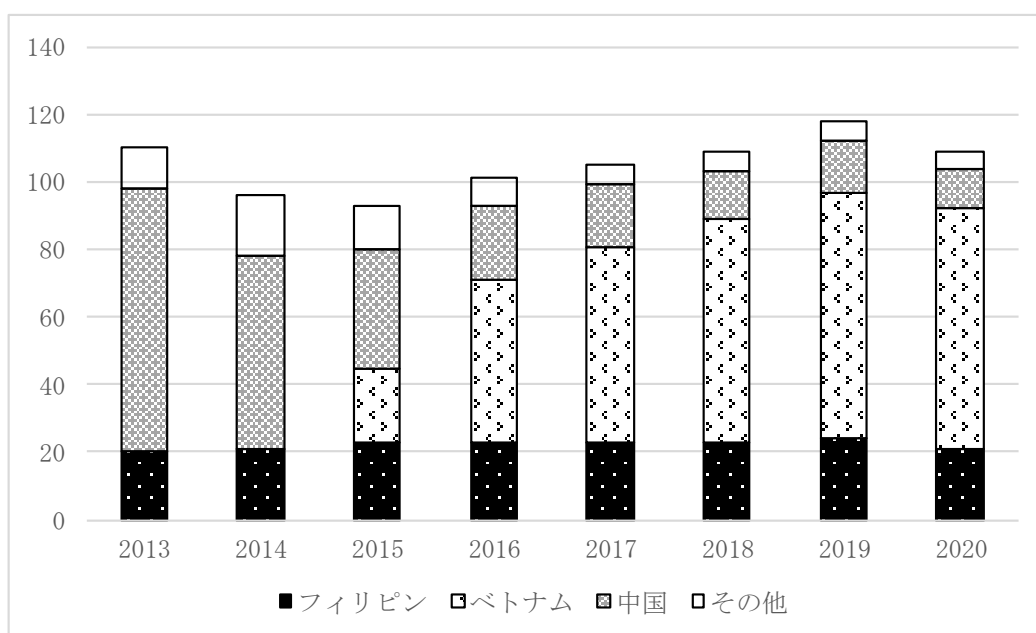
作物	生産額 (百万円)	作付面積 (ha) * 畜産を除く
野菜	1,738	738.4
花き類 (球根・切花)	1,682	124.7
畜産	1,271	—
さとうきび	988	877.9
果樹	45	9.9
その他	126	431.7

出所：和泊町

和泊町に居住する外国人の大半は、ベトナム人、フィリピン人、中国人である。図2は、2013年から2020年までの12月末における和泊町の外国人人口の推移を示したものである。2020年時点では、ベトナム人、71人、フィリピン人、21人、中国人が12人、その他の国籍の外国人は、韓国人、米国人、インドネシア人、ブラジル人など、計5人であった。ベトナム人の多くは、技能実習生である。特定技能外国人労働者も少数であるが存在する。特定技能制度が開始されたのが、2019年であること（公益財団法人 国際人材協力機構）、2020年初頭からのコロナ感染症の拡大により外国人の入国が困難となったことにより、和泊町のみならず、全国的にも受入れ人数は、現時点では少数であるが、今後、増加することが予想される。技能実習生受け入れの経緯に関しては、「有限会社 沖農園」代表の沖裕任氏に聞き取り調査を行った。和泊町は、1997年、広東省東莞市望牛トウ鎮と友好都市協定を結んだ後、中国より「技能実習制度」に基づき、技能実習生の農家受け入れを開始した。その後、中国各地から技能実習生を受け入れてきた。望牛トウ鎮と和泊町の友好都市締結は、1980年代後半、広東省に企業を設立し、中国の有名企業にまで成長させた和泊町出身の企業家、「奄美弾簧有限公司」代表、名島清行氏と島民、特に農家の尽力により実現された。和泊町でのベトナム人技能実習生の島へ

の導入は、2015年に始まり徐々に増加している。技能実習生の中心は、かつては、中国人であったが、現在では、ベトナム人に置き換えられる形となっている。和泊町の中国人の人口は、2013年の78人から、2020年の12人に右下がり急激に減少している。フィリピン人の人口は、同期間に、20人から24人の間を、安定的に推移している。外国人人口の総数は、2015年から2019年に、主にベトナム人技能実習生の受け入れによって、右上がり増加したが、コロナ感染症の拡大の影響があり、2020年は、減少した。

図2 和泊町の国籍別外国人人口の推移（2013年～2020年） 単位：人



出所：法務省出入国在留管理局

表4は、和泊町、知名町の国籍別の外国人人口を示している。ベトナム人、中国人の大半が、和泊町に居住していること、フィリピン人は和泊町より知名町に多く居住していることがわかる。知名町には、フィリピン人の島民の就労が可能な飲食店が和泊町よりも多く存在していることが、この人口比率のバランスに関連していると考えられる。

表4 鹿児島県離島における外国人居住者の出身国（2020年12月）

	ベトナム	中国	フィリピン	その他	合計
沖永良部島	79	13	64	13	169
和泊町	71	12	21	5	109
知名町	8	1	43	8	60

出所：法務省出入国在留管理局

表5は、和泊町役場への聞き取り調査を元にして作成したものである。2021年10月18日現在で、和泊町の技能実習生は65人で、特定技能外国人労働者は、1人であった。技能実習生も特技技能外国人労働者も、国籍はすべてベトナムであった。受入れ事業主は、18の事業所であり、ユリ、フリージアなどの花き生産が、16事業所、キクラゲなどのキノコ生産が、2事業所であった。ベトナム人労働

者が、島の基幹産業の一つである花き栽培に大きく貢献している。受入れ事業所の外国人労働者受入れ規模は、比較的、小さい。18の事業所のうち、12が3人以下の外国人を受入れている。受入れ人数が最も多いのは、12名である。和泊町の外国人技能実習生、特定技能労働者の大半は、大規模な商業的アグリビジネスの労働者というよりも家族労働を補足する労働者と位置づけることができる。

表5 和泊町の技能実習生・特定技能労働者数（人）
* 2021年10月18日現在

	ベトナム	その他	合計
技能実習生	65	0	65
特定技能外国人労働者	1	0	1
合計	66	0	66

出所：和泊町役場の資料を元に筆者作成

表6 和泊町の規模（技能実習生・特定技能労働者数）別
技能実習生受入れ事業主数 * 2021年10月18日現在

	1～3人	4～6人	7～9人	10～12人	合計
花き (ユリ、フリージアなど)	10	4	1	1	16
きのこ (キクラゲ)	2	0	0	0	2
合計	12	4	1	1	18

出所：和泊町役場の資料を元に筆者作成

島のフィリピン人の多くは女性であり、日本人男性の配偶者である。配偶者ビザを保有する彼女らは、就業活動に一切の制限がない（厚生労働省 a）。業種、職の数に制限がないために、島の労働不足の解消に貢献することができる。後述するように、フィリピン人島民の多くが、複数の仕事を掛け持ちしている。また、彼らの子供達の中には、成人年齢を迎えており、フィリピンの血を引く島民が現れてきている。育った環境により程度の差はあるが、日本、外国の文化の両方を理解できる彼らの存在は、島、町のグローバル化を見据えた経済社会の発展において重要な存在であるといえる。

中国人の島民に関しては、役場の職員への聞き取り調査によって、かつては、大半が技能実習生であったことがわかった。現在の彼らの就労状況などに関しては、今後の調査によって明らかにしていきたい。中国人技能実習生の減少の背景、配偶者などとして島に残った中国人島民とフィリピン人島民との労働市場における役割の違いなどに焦点を当てた調査を行う予定である。

3. 沖永良部島和泊町における外国人労働者の現状と課題

和泊町の外国人労働者の現状と課題を把握するために、2022年1月30日、1月31日に、役場職員、ベトナム人労働者の現状に詳しいライターの水嶋健氏、島に24年間住むフィリピン人女性A氏に対し聞き取り調査を行った。

1) ベトナム人技能実習生

朝日新聞が運営するオンライン上のニュースサイト「Withnews」で、衝撃的なタイトルの記事が、発表された。「「実習生が逃げていく島」町民があえて監視をおかない「深い理由」」である（『Withnews』2018年11月19日）。この記事によると、島では実習生の失踪が多く発生しており、受入れ農家は、失踪する実習生を働かせる人々がいる限り、沖永良部島は、日本での労働の入り口として利用されるのみと考えている。技能実習生の賃金は、各県の最低賃金以上でなくてはならないが、鹿児島県の最低賃金は他県に比べて低いのが実情である。令和3年(2021年)10月に制定された最低賃金の全国平均は、930円、鹿児島県は、821円である。東京都の1041円、大阪府の992円と比較すると大きな格差があることがわかる（厚生労働省b）。

技能実習生制度の枠組みを変えること、あるいは鹿児島県の最低賃金を引き上げることは、短期間では困難であるが、和泊町民は、技能実習生と島民とのコミュニケーションギャップを埋め、島を外国人技能実習生・特定技能外国人労働者にとって住みやすく、労働しやすい環境に変えていく試みを行っている。2020年1月には、島民の企画により、ベトナム語では、テトと呼ばれる旧正月を祝うイベントが若手農家らでつくる「エラブネクストファーマーズ」と県沖永良部事務所の共催で行われた（『南海日日新聞』2020年01月26日）（図3参照）。ルーツを島に持つ移住者の水嶋健氏は、Tシャツなどを用いた技能実習生と研修先の事業所とのコミュニケーションギャップを埋めるツール作りを行っている。ベトナム人実習生と日本人の事業主、従業員が、各自のTシャツにベトナム語と日本語で書かれたイラスト付き作業項目を、指で指し示し、仕事や生活での意思疎通の円滑化を図るというユニークなアイデアである（図4、図5参照）。水嶋氏は、技能実習生向けのTシャツ、『GINO-T（ギノティ）』の制作費を、クラウドファンディングで調達した（『REWADY FOR』2020年12月23日）。氏は、このようなTシャツのバージョンを様々な作業、多言語に広げていく準備を進めている。また、和泊町のアパレルショップ、居酒屋の主催により島内で技能実習生として働くベトナム人島民への古着提供会が行われた（『奄美群島南三島経済新聞』2022年2月1日）（図6参照）。賃金は、高くなくとも、住みやすく、働きやすい島、町の条件が形成されれば、技能実習生、特定技能労働者の定着率は高まっていくであろう。

2) 定住フィリピン人

A氏は、50代のフィリピン国籍の女性である。1988年より、複数回に分けて、興行ビザによって来日し、長野県、鹿児島県徳之島、秋田県、群馬県、埼玉県などの飲食店で働いた。1996年に、埼玉県の飲食店で出会った日本人男性と結婚した。1998年に夫の出身地である沖永良部島に夫とともに移り住んだ。当時は、夫の母親、祖母が同居しており、厳しく「躰」られた。しばらくは、外出も希であった。結果的に、島の家族、親戚、近隣社会に馴染むことができた。子供は、3人おり、長男が25才、長女が、24才、次男が19才である。長男は、島の建設会社、長女は、町役場に勤務している。次男は、元自衛隊員で、現在は島に戻ってきている。A氏は、昼は、コンビニエンスストア、スーパーマーケット、ハンバーガーショップ、夜は居酒屋で働く。平日だけではなく、土曜日、日曜日もほぼ休まずに働いている。

A氏によると、町や島のフィリピン人同士が一同に集まることは、ほぼなく、フィリピン人によって運営される任意団体なども存在しない。リーダー的な人もいない。和泊町には、キリスト教の教会が二つあるが、そこでフィリピン人が集まって何かの活動をするということもない。パルワガン

(paluwagan)と呼ばれる積み立て貯金を行う少人数のグループがいくつか存在するのみである。A氏によると、パルワガンは、「模合（もあい）」と呼ばれる島の庶民金融に似通っている。A氏のグループは、毎月2万円の積み立てをしており、13人が参加している。島には、10人程度が参加する他のパルワガンのグループも存在する。コンビニエンスストアやスーパーマーケットで働いているときに中国人やベトナム人をみかけることがしばしばあるが、フィリピン人と彼らとの交流はほとんどない。かつて、和泊町では、島に住む外国人のために日本語教室を開催していたが、現在は行っていない。外国人が仕事で忙しく参加できないためだ。約10年前に、A氏が日本語教室に通っていたときは、受講生が10名程度いた。A氏によると、島のフィリピン人の多くは、飲食店勤務で知り合った島出身の男性との結婚が、島に住むきっかけである。その他に、島に住むフィリピン人が、フィリピンに住む親戚や知り合いを、島の男性に紹介する場合もある。フィリピン人の多くは、毎月5万円程度を母国に仕送りしている。フィリピン人が土日も休まずに一日中働く原因の一つが、この送金である。



図3 ベトナム式の乾杯で盛り上がる交流会



図4 「GINO-T」の使用イメージ

出所：『READY FOR』2020年12月23日



図5 「GINO-T」のコンセプト

出所：『READY FOR』2020年12月23日



図6 ベトナム人島民への古着提供会

出所：『奄美群島南三島経済新聞』

2022年2月1日

4. 離島で外国人労働者が地域社会経済に貢献するための条件

A 氏、水嶋氏、和泊町役場職員への聞き取り調査によって、沖永良部島においては、フィリピン人は、個人レベルで、地域社会や職場に定着していることもわかった。しかし、フィリピン人同士、日本人以外の国籍の島民との交流が希薄であることがわかった。ベトナム人技能実習生、特定技能外国人労働者に関しては、現時点では、日本人島民とのコミュニケーションギャップが問題であり、島の若者を中心にして、このギャップを埋める試みが始まっていることが確認できた。

今後、島のフィリピン人は、島への同化の段階から、島に対してフィリピン人の持つ強みを発信していく段階に移行することが期待される。そこで注目されるのフィリピン人の血を引く2世代目の役割である。彼らのうち、特に島に住む者は、親世代と協力して島の国際化、新しいビジネスの創設に貢献することが期待される。外国人による新しいビジネスやアイデアが発信される枠組みが、島民、町役場、島の内外の市民グループなどとのコラボレーションによって展開されることが期待される。

ベトナム人技能実習生に関しては、実習生の賃金は全国平均より低い鹿児島県の最低賃金を基準としているという現状、平均気温の高い島での花き生産が重労働であるなどの様々な条件により、島から逃避するベトナム人が存在する。このような条件を所与のものと考えると、水嶋氏やその他の若者が行っているように少しでも住みやすい、働きやすい環境を島に作る必要がある。同じ業種であれば職場を選ぶことに関しては選択権のある特定技能外国人労働者に対してはなおさらのことである。

フィリピン人、ベトナム人と並んで重要な中国人の労働に関する調査は、今後、行っていく予定である。和泊町の沖農園は、1990年代に、実習生を島に最初に受入れた。当時は、実習生は、すべて中国人であった。現在は、ベトナム人実習生を受入れている。中国人実習生からベトナム人実習生への切り替えの経緯などを、農園主に対して聞き取り調査を行う予定である。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、和泊町役場の職員の方々、沖裕任氏、水嶋健様、フィリピン国籍のA氏らに聞き取り調査を行いました。これらの方々の多大なご協力に心から感謝を申し上げます。

参考資料

オンライン資料（新聞等）

- 1) 『奄美群島南三島経済新聞』「沖永良部島でベトナム人と日本人の交流会 古着きっかけ」2022年2月1日 <https://amami-minamisantou.keizai.biz/headline/106/>（2022年5月1日閲覧）。
- 2) 『Withnews』「「実習生が逃げていく島」町民があえて監視をおかない「深い理由」」2018年11月19日 <https://withnews.jp/article/f0181119003qq0000000000000000G00110101qq000018372A>（2022年5月1日閲覧）。
- 3) 『南海日日新聞』「実習生招き春節交流会 ベトナム式乾杯で盛り上がる 沖永良部」2020年01月26日 <https://www.nankainn.com/news/local/%e5%ae%9f%e7%bf%92%e7%94%9f%e6%8b%9b%e3%81%8d%e6%98%a5%e7%af%80%e4%ba%a4%e6%b5%81%e4%bc%9a%e3%80%80%e3%83%99%e3%83%88%e3%83%8a%e3%83%a0%e5%bc%8f%e4%b9%be%e6%9d%af%e3%81%a7%e7%9b%9b%e3%82%8a%e4%b8%8a>（2022年5月1日閲覧）。
- 4) 『南海日日新聞』「国営地下ダム進捗 84% 沖永良部」2020年05月22日

<https://www.nankainn.com/news/gvmnt-admin/%e5%9b%bd%e5%96%b6%e5%9c%b0%e4%b8%8b%e3%83%80%e3%83%a0%e9%80%b2%e6%8d%97%ef%bc%98%ef%bc%94%ef%bc%85-%e6%b2%96%e6%b0%b8%e8%89%af%e9%83%a8%e5%b3%b6> (2022年5月1日閲覧)。

5) 『READY FOR』「ベトナム人実習生の失踪・過労死・自死などを解決する”Tシャツ”開発」2020年12月23日 <https://readyfor.jp/projects/gino-t> (2022年5月1日閲覧)。

オンライン政府統計・資料

1) 厚生労働省 a 「配偶者の就労について」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001qu38-att/2r9852000001qu81.pdf> (2022年5月1日閲覧)。

2) 厚生労働省 b 「令和3年度地域別最低賃金改定状況」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouki_jun/minimumichiran/ (2022年5月1日閲覧)。

3) 国土交通省国土地理院『地理院地図（電子国土Web）』

<https://maps.gsi.go.jp/#5/36.104611/140.084556/&base=std&ls=std&disp=1&vs=clglj0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1> (2022年5月1日閲覧)。

4) 総務省「令和2年度国勢調査」

<https://www.e-stat.go.jp/statistics/00200521> (2022年5月1日閲覧)。

5) 法務省法務省出入国在留管理局「在留外国人統計」(2013年、2014年、2015年、2016年、2017年、2018年、2019年、2020年)

<https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003147283> (2022年5月1日閲覧)。

その他オンライン資料

1) 一般社団法人 おきのえらぶ島観光協会『沖永良部島の紹介』

<http://www.okinoerabujima.info/about/#sightseeing-spots> (2022年5月1日閲覧)。

2) 公益財団法人 国際人材協力機構『在留資格「特定技能」とは』

<https://www.jitco.or.jp/ja/skill/> (2022年5月1日閲覧)。

3) 和泊町『和泊町町勢要覧2021』

<https://www.town.wadamari.lg.jp/kikaku/wadomaricho/gaiyo/choseyoran.html> (2022年5月1日閲覧)。

Journal for the Island Industry

No.5

Jun 2022

【Field Report】

Current Status and Issues of the Foreign Labor on Okinoerabujima

NISHIMURA Satoru, NISHIMURA Jo-Ann Tejada (1)